

- 国民が健全な食生活を送るためには、その基盤として持続可能な環境が不可欠であることから、第4次食育推進基本計画（令和3年3月）では、重点事項として「持続可能な食を支える食育の推進」を位置づけ、目標として「環境に配慮した農林水産物・食品を選択する国民を増やす」ことを設定。
- 消費者に対して、環境に配慮した農林水産物・食品を選択してもらうよう働きかけを行うことが重要。
- これまで、食生活指針（平成12年3月）を具体的に行動に結びつけるものとして、食事バランスガイドを作成、普及啓発してきたところ。
- 食事バランスガイドとあわせて、環境に配慮した農林水産物・食品に関する情報発信を行うことにより、栄養面、環境面双方への配慮が共に高まることを目指し、「持続可能な食を支える食育の推進」に係る委託事業を令和3年度から実施（下表）。
 - 令和3年度は、国民が日常の食生活で容易に実践できる環境の視点に関する情報を収集・整理。
 - 令和4年度は、消費者向けの食育用の資材の内容について検討を行い、「食事バランスガイド」に付記するメッセージ案と食育実践者向けの解説要領案の作成。
 - 令和5年度は、普及啓発用のパンフレットを作成予定。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
概要	国民が日常の食生活で容易に実践できる環境の視点に関する情報を収集・整理	消費者向けの食育用資材の内容について検討	普及啓発資材の作成
成果物	環境の視点について情報を収集・整理するとともに、諸外国の食生活指針・フードガイドにおける環境の視点を整理した報告書を作成。	「食事バランスガイド」に付記するメッセージ案と、食育実践者向けの解説要領案の作成。	令和4年度の成果物をもとにパンフレットを作成し、幅広い層への普及啓発を実施予定。

令和3年度食育活動の全国展開委託事業 概要

(「持続可能な食を支える食育の推進」に係る検討—フードガイドの見直しに向けた検討)

令和3年度の実施内容

【概要】

- フードガイド(「食事バランスガイド」)は、食料自給率の向上という視点は入っているものの、「何をどれだけ食べたらよいか」の食事内容のバランスを中心に表したものであり、持続可能な環境の視点が可視化されているものではない。
- 持続可能な食を支える食育を推進するためには、国民の具体的な行動に結びつくような、環境の視点も可視化したフードガイドが必要。

⇒「環境の視点を入れたフードガイド策定に向けたワーキンググループ」を設置し、環境の視点を入れたフードガイドに盛り込むべき情報や表現方法等の方向性、策定のために必要な情報収集・整理など、環境の視点を入れたフードガイド策定に必要な事項を明らかにするための検討を実施。

【ワーキンググループ】

開催回数: 3回

委員	武見 ゆかり	女子栄養大学大学院 研究科長・教授
(敬称略)	青柳 みどり	国立研究開発法人国立環境研究所 社会システム領域 主席研究員
	金本 圭一郎	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 准教授
	黒谷 佳代	昭和女子大学 食健康科学部健康デザイン学科 専任講師
	香坂 玲	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
	小林 富雄	愛知工業大学 経営学部経営学科 教授

【成果】

(1) 消費者が日常の食生活で容易に実践できる環境の視点として、7つの視点について5つの項目ごとに情報を収集・整理

7つの視点: ①大気(GHG排出量)／②水(ウォーターフットプリント)／③食料自給／④土壌(有機農業)／

⑤生態系(生態系に配慮した生産・資源管理)／⑥食品ロスと廃棄物／⑦産地・風土の特性

5つの項目: ①推奨される食生活における食物選択と指標(指標の概要、設定の考え方/消費者に示す意義等)／

②定量指標に関する算定方法・算定事例※1／③推奨行動を後押しする情報・エビデンス等／④検討課題・留意点等／

⑤フードガイドで想定されるガイド・表現のオプション ※1 大気(GHG排出量)、水(ウォーターフットプリント)のみ

(2) 諸外国の食生活指針・フードガイドにおける環境の視点を整理

令和4年度食育活動の全国展開委託事業 概要

（「持続可能な食を支える食育の推進」に係る検討－フードガイドの見直しに向けた検討）

令和4年度の実施内容

【概要】

- 令和3年度食育活動の全国展開委託事業「環境の視点を入れたフードガイド策定に向けたワーキンググループ」を踏まえて、令和4年度食育活動の全国展開委託事業では「「持続可能な食を支える食育の推進」に係る検討－フードガイドの見直しに向けたワーキンググループ」を設置。
- 「食事バランスガイド」に環境の視点を付記するメッセージ案を検討するとともに、その内容を踏まえ、国民（消費者）が環境に配慮した農林水産物・食品を選択することを促すような情報を提供するツール案の検討を実施。

【ワーキンググループ】

開催回数：3回

委員：武見 ゆかり
（敬称略） 秋葉 芳江

足立 直樹
黒谷 佳代
小林 富雄
佐々木 宏樹

女子栄養大学大学院 栄養学研究科長・教授
長野県立大学大学院ソーシャル・イノベーション研究科・グローバルマネジメント学部
教授・ソーシャル・イノベーション創出センター長
株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役
昭和女子大学 食健康科学部健康デザイン学科 専任講師
日本女子大学 家政学部家政経済学科 教授
農林水産省 農林水産政策研究所 上席主任研究官

【成果】

「持続可能な未来につながる食生活を送るために心がけたい4つのポイント(案)」と「持続可能な未来につながる食生活を送るために心がけたい4つのポイント」解説要領(案)を作成

